

岸和田市生活排水処理統合方針概要

202109 作成

■現状整備状況&現計画

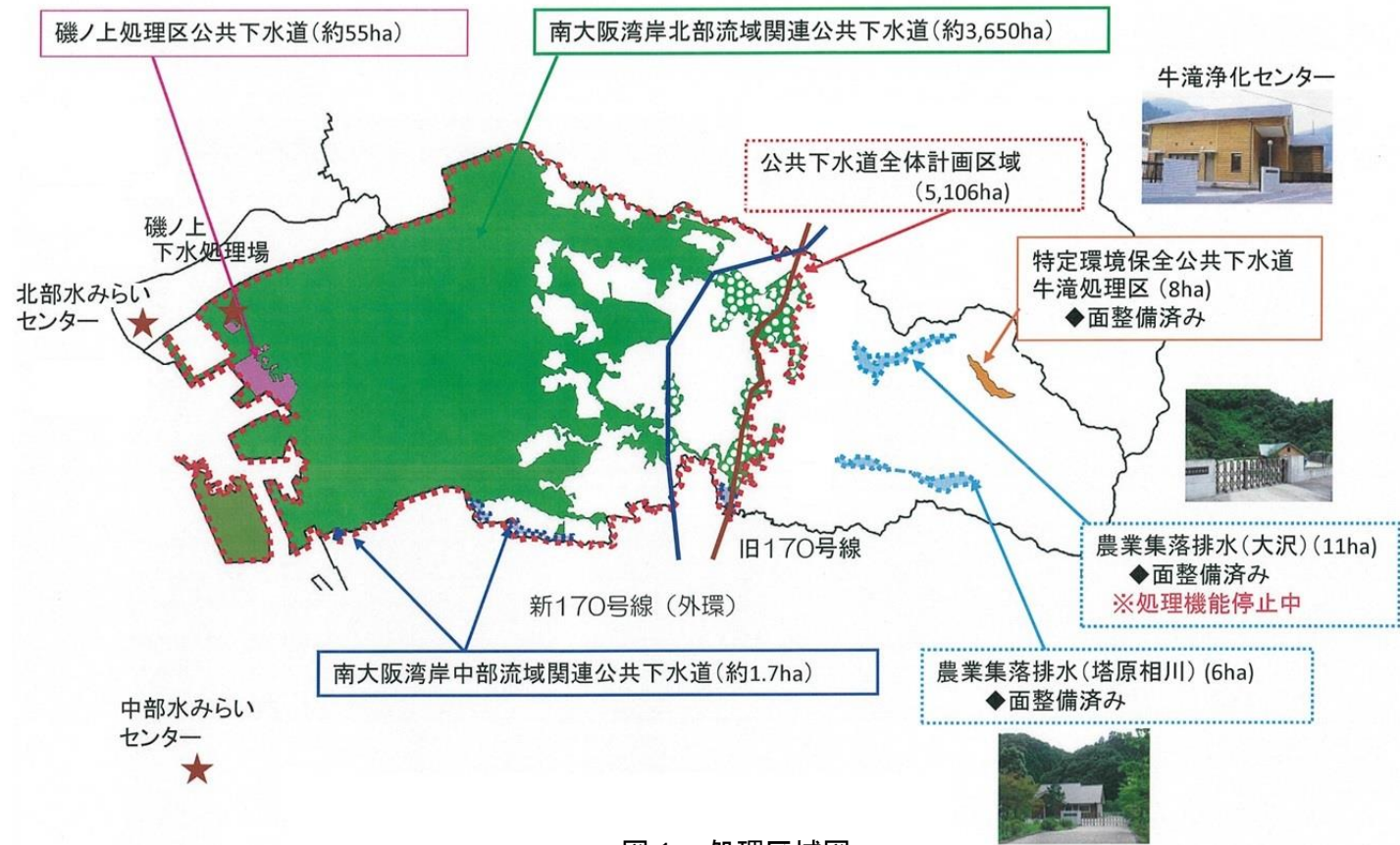


図1 処理区域図

表1 現在の整備状況（令和2年末時点）

項目	流域関連 公共下水道		単独 公共下水道	特環 公共下水道	農業集落排水	
	北部	中部	磯ノ上	牛滝処理区	大沢地区	塔原・相川地区
全体計画 計画面積 (ha)	5,106	33	(55)	11	-	-
整備済面積 (ha)	2,845	2	55	8	11	6
整備率 (%)	96.3	100	100	100	100	100
供用開始年度	1987(S62)	1989(H1)	1967(S42)	1999(H11)	2007(H19)	2001(H13)
経過年度 (年)	33	31	53	21	13	19

- 岸和田市の生活排水処理は、公共下水道の北部・中部処理区(流域)、磯ノ上処理区(単独)と牛滝処理区(特環)及び農業集落排水の大沢地区、塔原・相川地区で構成されている。
- 岸和田市の下水道は令和2年度末時点で、約2,930ha整備されており、整備率は約96%である。
- 磯ノ上処理区は全体計画で、将来的に北部処理区に統合されることとなっている。

■現状の課題

- 当初計画に対して近年の人口減少が見込まれ、処理能力に余裕の発生が想定されており、今後必要となる改築事業費及び維持管理費を考慮すると、処理能力の集約について検討する必要がある。
- 農業集落排水大沢地区は平成29年10月22日の台風21号により処理場が被災し、汚水処理が出来ない状況となっており現在仮設処理施設で対応しているため、早急な対策が求められる。

■整備方針検討

- 計画目標年次(H52)における計画汚水量の算定のために将来人口の推定を行う。
- 流域関連公共下水道区域における国道170号線より山側の未整備区域(河合町・内畑町)の整備方針を検討。
- 磯ノ上処理区、牛滝処理区、大沢地区、塔原・相川地区の既存処理区域における効率的な汚水処理の方針を検討。

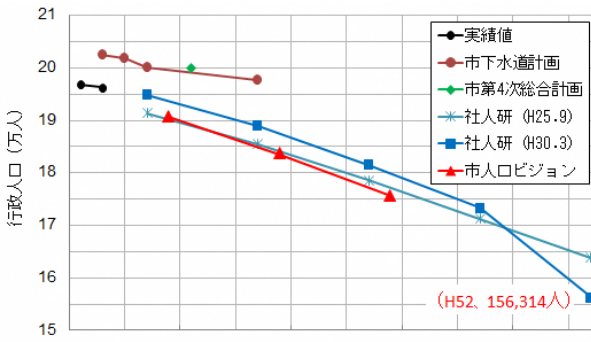
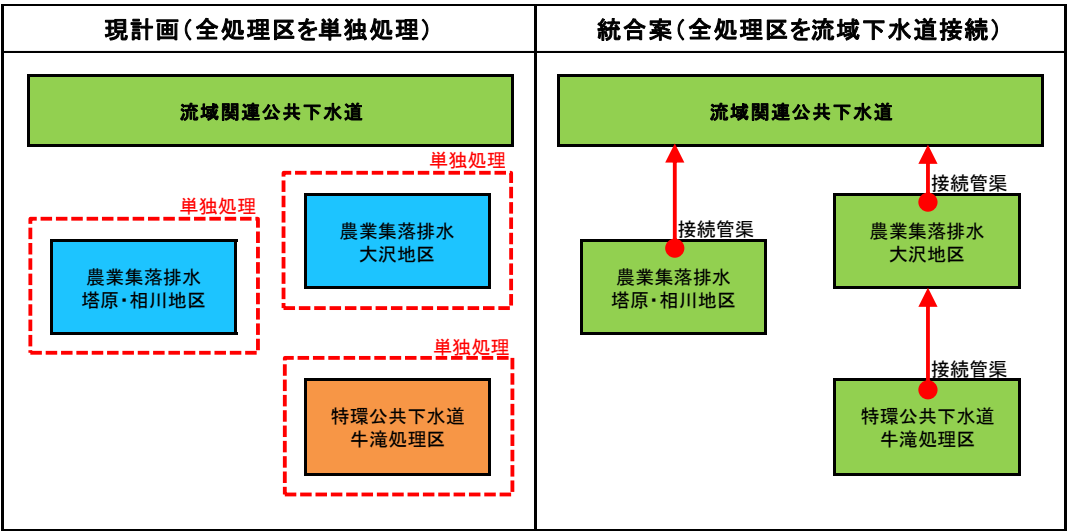


図2 将来人口の推移

■既存処理区域の統合検討結果

牛滝処理区、大沢地区、塔原・相川地区は検討結果より、流域下水道に統合し、既存の処理場を廃止することで以下のように年間コストを削減できる。



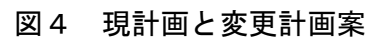
※年間コストとは、現計画では既存処理場等の改築更新及び維持管理費の合計であり、統合案では各処理区の接続管渠の建設費、改築更新費及び維持管理費の合計である。

年間コストを約1,600万円/年
削減可能

図3 既存処理区域の統合検討結果

特定環境保全公共下水道(牛滝処理区)、農業集落排水(大沢地区、塔原相川地区)を、北部流域関連公共下水道に編入する方針とする。

現計画では、特定環境保全公共下水道(牛滝処理区)、農業集落排水(塔原・相川地区、大沢地区)区域は単独で処理する計画であるが、将来的に維持管理及び経済性が有利となることから、下記変更計画案のとおり、3 区域を北部流域関連公共下水道に編入する。



3 区域編入完了までの整備スケジュールは以下の通り。

図5 中期計画スケジュール

令和3年から令和10年（牛滝処理区編入）までの手続き・整備スケジュールは以下の通り。

図6 短期整備スケジュール及び概算投資額

計画実施に当たり、大阪府と以下の調整協議及び合意形成を進める。

